

日本を取り巻く世界情勢を把握するために

# 国際関係図書目録

## 2001-2005

日外アソシエーツ編 A5・全3冊  
セット定価(本体99,000円+税)〈分売可〉

- 2001～2005年の5年間に刊行された国際関係に関する図書を、地域やテーマ別に一覧できる図書目録。『国際関係図書目録 1995-2000』(2001.12刊 全3冊)の継続版です。
- 歴史・政治・経済・社会から、個人レベルの留学・異文化体験まで幅広い分野の図書2.9万点を収録しました。各巻「著者名索引」「書名索引」「事項名索引」付き。

### ① 日本対欧米・南米・アフリカ

2006年7月刊行

項目例

730頁 定価(本体33,000円+税) ISBN978-4-8169-1987-9

日本と南北アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ諸国との関係に言及した図書7,679点収録。

日米安全保障条約 沖縄問題 南蛮文化 EU通貨統合 チェルノブイリ原発事故 経済・技術援助 …etc.

### ② 日本対アジア・オセアニア

2006年8月刊行

項目例

830頁 定価(本体33,000円+税) ISBN978-4-8169-1988-6

日本とアジア・オセアニア・太平洋地域各国との関係に言及した図書9,084点収録。

領土問題 日本人拉致事件 戦後補償 スマトラ沖地震 自衛隊イラク人道復興支援活動 経済・技術援助 …etc.

### ③ 世界の国際関係

2006年9月刊行

項目例

1,030頁 定価(本体33,000円+税) ISBN978-4-8169-1989-3

国や地域の枠組みを超えた日本と世界の関係や、戦後の諸外国間関係に言及した図書12,498点収録。

イラク戦争 アメリカ同時多発テロ 貿易摩擦 中東和平 中国人民元切り上げ WHO 環境問題 開発問題 …etc.

#### 国際関係図書目録 1995-2000

セット定価(本体59,400円+税)

既刊

- |                 |                 |          |
|-----------------|-----------------|----------|
| ① 日本対欧米・南米・アフリカ | 定価(本体19,800円+税) | 2001.12刊 |
| ② 日本対アジア・オセアニア  | 定価(本体19,800円+税) | 2001.12刊 |
| ③ 世界の国際関係       | 定価(本体19,800円+税) | 2001.12刊 |

#### 国際関係図書目録 45/94

セット定価(本体148,800円+税)

- |                     |                 |          |
|---------------------|-----------------|----------|
| I 日本対南北アメリカ         | 定価(本体19,900円+税) | 1996.1刊  |
| II 日本対ヨーロッパ・アフリカ    | 定価(本体17,500円+税) | 1996.3刊  |
| III 日本対アジア・オセアニア〈上〉 | 定価(本体19,200円+税) | 1996.6刊  |
| IV 日本対アジア・オセアニア〈下〉  | 定価(本体38,000円+税) | 1996.9刊  |
| V 日本対世界             | 定価(本体35,000円+税) | 1996.12刊 |
| VI 諸外国の関係           | 定価(本体19,200円+税) | 1997.10刊 |

2019.3

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■ 貴店名	注文書	国際関係図書目録 2001-2005 ① 日本対欧米・南米・アフリカ 定価(本体33,000円+税) ISBN978-4-8169-1987-9	冊
		国際関係図書目録 2001-2005 ② 日本対アジア・オセアニア 定価(本体33,000円+税) ISBN978-4-8169-1988-6	冊
		国際関係図書目録 2001-2005 ③ 世界の国際関係 定価(本体33,000円+税) ISBN978-4-8169-1989-3	冊

イラク共和国

政治・法制・軍事

- ◇イラク—中東諸国の政府機構と人脈等に関する調査 中東経済研究所 2003.3 41p 30cm (政府機構と人脈調査シリーズ 24) ⑨292.7209 [08200]
- ◇イラクこの子たちの笑顔を消さないで—湾岸戦争から12年後のイラクは今 伊藤政子講演録 第9条を地球憲法に 伊藤政子述, 第9条の会・オーパー東京編 第9条の会・オーパー東京 2003.3 61p 21cm (あーていくる9ブックレット5) (影書房(発売) 会期・会場: 2003年2月2日 北区赤羽会館) 600円 ④4-87714-300-9 ⑨302.273 [08201]
- ◇イラクと日本 宮田律著 集英社 2004.7 220p 18cm (集英社新書) 680円 ④4-08-720251-8 ⑨302.273  
 [内容] 第1章 イラク社会と歴史の特殊性(イラクの歴史—古代—オスマン帝国 イラクの歴史—イギリス支配—湾岸戦争) 第2章 イラクと日本(日本に対する「戦勝国」 石油危機を契機に親密な関係にほか) 第3章 イラク混迷の理由(浅慮なイラク攻撃 プッシュ父子の事情ほか) 第4章 世界で増殖するイスラム過激派(世俗国家トルコとバルカン半島 サウジアラビアほか) 第5章 日本とイラクの将来(自衛隊派遣のもつ意味 自衛隊は何をすべきか? どうふるまうべきか?ほか) [08202]
- ◇イラク問題と日本人 中東調査会編 明石書店 2003.5 263p 20cm 2400円 ④4-7503-1723-3 ⑨319.1027  
 [内容] 第1章 対談: 国際社会に何が起きているのか 第2章 講演: 現在の中東を取り巻く国際情勢への視点 第3章 現代の中東・イスラム世界への視点—日本人中東関係研究者の視点 第4章 日本の中東政策への視点—外務省の視点 第5章 日本人として何を考えるのか—コフィ・アナン事務総長への

- ◇イラク問題と日本の役割—日米関係と国際協力 山内昌之述 経済広報センター 2004.10 25p 19cm (経済広報センターポケット・エディション・シリーズ no.50) ⑨319.1027 [08204]
- ◇イラクはどこへ行くのか 酒井啓子著 岩波書店 2005.1 71p 21cm (岩波ブックレット no.643) (年表あり) 480円 ④4-00-009343-6 ⑨312.273  
 [内容] 1 治安の悪化は何が原因か 2 暫定政府は機能しているか 3 宗派対立は起こるか 4 自衛隊と日本の関わり 5 おわりに—民主化とイラクの政治体制の将来 [08205]
- ◇国際情勢・イラク関係審議録—第155回・156回国会 衆議院外務委員会 国民新聞社出版局 2003.9 362p 30cm 50000円 ⑨314.1452 [08206]
- ◇日本政府よ! 嘘をつくな! —自衛隊派兵、イラク日本人拉致事件の情報操作を暴く グローバル・ウォッチ編 作品社 2004.5 182p 21cm 1500円 ④4-87893-637-1 ⑨319.10273  
 [内容] 1 イラク日本人拉致事件、解放までの真実—無策の日本政府と、市民ネットワークの活躍(世界の市民運動ネットワークが、イラク日本人拉致事件解決に寄与した! イラク日本人拉致事件の経緯—イラク戦争で、市民は何をなしえるのか、何をすべきなのか 日本の反戦ネットワークが、イラク民衆のレジスタンス・ネットワークとつながった!) 2 リカービ/小泉会談と日本政府の情報操作—私は、小泉首相に騙された! (アブデル=アミール・アル・リカービ「私が、日本の人々に、本当に言いたかったこと」 リカービ氏とイラク民主化運動 リカービ氏来日における情報操作とメディア報道) [08207]

◆イラク戦争(2003)

- ◇一連のイスラム戦争と北海道—世界は今や信長の「天下布武」の時代だ イスラム戦争の時代

◆イラク日本人拘束事件

- ◇いま問いなおす「自己責任論」 イラクから帰国された5人をサポートする会編 新曜社 2005.10 259p 19cm 1900円 ④4-7885-0966-0 ⑨319.10273  
 [内容] イラク「混乱」の責任を問われるのは誰か イラクで考えたこと 政府・与党が誘導した自己責任論 「自己責任論」の分析—魅力と限界 国際比較で見た日本の自己責任論 韓国からの報告—イラクでの韓国人拘束事件をめぐる報道と世論の動向 「自己責任」とメディアの責任 イラク拉致事件とメディア・パッシング 「自己責任」とは何だったのか—民主国家における政府と個人の責任 [08252]
- ◇イラク日本人拘束事件と「自己責任」報道—海外メディアは日本人拘束事件をどう伝えたか 同志社大学浅野健一ゼミ編著 現代人文社 2005.1 118p 21cm (Genjinブックレット 47) (大学図書(発売)) 1100円 ④4-87798-235-3 ⑨070.4  
 [内容] 僕が伝えたいこと—恐怖を感じた「自作自演」「自己責任」報道の嵐(今井紀明)(アルジャジーラで初めて知った日本の状況 拘束、焦りと恐怖ほか) パネルディスカッション「自己責任」論とジャーナリズムを考える(ダグラス・ラミス×ブライアン・コバート×森吉弘×浅野健一)(「自己責任」論の背景 ジャーナリストの役目とはほか) 検証 イラク日本人拘束事件と「自己責任」論をめぐる報道姿勢—海外メディアと日本メディアの比較検討(米国 英国ほか) 検証 香田証生さん殺害事件報道—イラクでの拘束事件で初の犠牲者(小泉政権と冷酷なメディアに殺された香田さん 政府を免責する主要メディアほか) [08253]
- ◇イラク「人質」事件と自己責任論—私たちはこう動いた・こう考える 佐藤真紀, 伊藤和子編 大月書店 2004.7 185p 21cm 1200円 ④4-272-21080-7 ⑨319.10273

- [内容] 1 命のリレー・トーク「そのとき私たちはこう動いた」 2 拘束から解放へ、これからのこと(子どもの眼から教えられて「自己責任」とは?ほか) 3 イラクと向きあう(人質事件の背景・ファルージャ大虐殺 イラクと向き合うためにほか) 4 私はこう考える—戦争責任か自己責任か(メディアという暴力 海外のメディアが伝えたパッシングほか) 鼎談 なぜ「自己責任論」が噴出したのか [08254]
- ◇香田証生さんはなぜ殺されたのか 下川裕治著 新潮社 2005.10 220p 20cm 1400円 ④4-10-300231-X ⑨319.10273 [08255]
- ◇自己責任—いま明かす「イラク拘束」と「ニッポン」 今井紀明著 講談社 2004.8 220p 19cm 1400円 ④4-06-212546-3 ⑨319.10273  
 [内容] 第1章 18歳、イラクへ(私がイラクを目指した理由 アンマンまでの遠き道のりほか) 第2章 拘束事件、発生(イラクへの第一歩 目隠しと、銃剣と、ビデオ撮影と…ほか) 第3章 そして解放へ(約束と裏切りと ついに返された荷物ほか) 第4章 「自己責任」の大合唱の中で(帰国、そして帰郷 記者会見に臨むまでほか) [08256]
- ◇戦場が培った非戦—イラク「人質」渡辺孝孝のたたかい 渡辺孝孝著 社会批評社 2005.3 247p 19cm 2000円 ④4-916117-65-4  
 [内容] プロローグ(自己批判の書 全国各地での人々との触れあい 人らしく生きる世の中を) 第1章 陸上自衛隊第一空挺団(我が故郷・足利日航機墜落事故で自衛隊入隊ほか) 第2章 ビルマ・カレン民族解放軍(大日本誠流社から義勇兵に タイ国境からビルマへほか) 第3章 新右翼—水会(新右翼との出会い 一水会入会をめぐる紛争ほか) 第4章 レバノン—パレスチナ(アナーキズムへの関心 東アジア反日武装戦線の救援ほか) [08257]
- ◇戦争と平和—それでもイラク人を嫌いにならない 高遠菜穂子著 講談社 2004.8 383p